

学生からのコメント

数理科学科の皆さん、こんにちは！栗原研学部4年生の雁谷と申します。

栗原研は現在、栗原先生、PDの先輩が1人、研究員の先輩が2人、博士課程の先輩が1人、修士2年の先輩が3人、修士1年の先輩が3人、学部4年生は今年は1人です。

学部生は、週1回のセミナーで整数論について勉強しています。現在私は、栗原先生著「ガウスの数論世界をゆく—正多角形の作図から相互法則・数論幾何へ」を読んでいます。この教科書では、ガウス周期という複素数のみならず基本定理を用いて、平方剰余の相互法則と4乗剰余の相互法則を証明します。教科書に書いてある以上のことを取り上げることも多く、充実したセミナーを行っています。学部生のセミナーは栗原研のメンバー全員が原則参加することになっており、(適度な)緊張感の中でセミナーをしています。そこでは数学的に正しい議論だけではなく、聞いていて分かりやすい説明も求められます。そのためには定義や定理やその証明の理解に加えて、教科書の行間を読むことは必須です。セミナーに向けての準備は決して楽ではありませんが、毎回楽しく発表させていただいています。また、栗原研の先輩は大変優しく親しみやすい方ばかりで、こちらの質問にも快く答えてくださいます。同期のいない私にとって、質問しやすい先輩方の存在は大変ありがたいです。

栗原研にはセミナーだけではなく、様々なイベントがあります。毎年、春と秋には早慶戦の応援に行きます。研究室のメンバーで早慶戦の応援に行くというのは栗原研の特徴の一つだと思います。また、夏休みには合宿があります。今年は伊豆の伊東で行われました。テーマは「保型形式からセール予想の証明まで」という壮大なものであったため、学部生の私にとっては、大変難解なセミナーではありましたが、楽しい雰囲気の中で行われました。

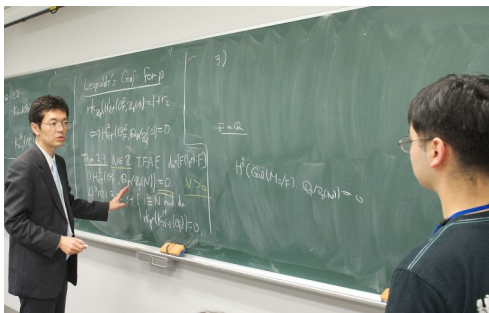


2018年伊豆での合宿

セミナーは夜まで続きましたが、その後には飲み会やテーブルゲームが行われ、特に、合宿中に誕生日を迎えた先輩がいらっしやっただけで、サプライズのケーキを買ってきたりして、その祝福で大変盛り上がりました。栗原研はお酒が好きな方が多く、合宿中に消費されたお酒の量には大変驚かされました。しかし、飲まない人でもまったく問題はありません。かくいう私もお酒はほとんど飲めませんが、大変楽しい時間を過ごせましたから。

最後になりますが、栗原研は素数や整数論、群・環・体といった代数に興味がある方にはうってつけの研究室であると思います。もっと栗原研のことを知りたい！という方は、「栗原研超公式サイト」へぜひいらしてください。

教員からのコメント



整数論を研究しています。数の世界に入っていくと、深く進めば進むほど美しい世界が広がるのです。

ちょうど、山に登ったときに、上に行けば行くほど美しい景色が広がるように、先に進めば進むほど、美しい景色が広がります。そして下を見ると、なるほどあの部分はこうなっていたのか、とわかります。写真を撮ってきて、見せてあげたいとも思いますが、やはり写真では本物の感動は伝わらないようです。自分で汗をかいて登ってみて、初めてめぐり合える景色は格別です。数理科学科に来て、数学を勉強してみると、今ま

での数学は子供向けのものだったことがわかると思います。

皆さんも、数理で本物の数学に出会いませんか。なお、整数論は代数系に分類されていますので、まずは代数を勉強してほしいと思います。今までの数学が苦手な人でも、これからの勉強で代数系の科目は十分に間に合います。要は興味を持って自分で進むことです。数理科学科で数の世界の神秘を体験してほしいと思います。

栗原 将人